

3 共生社会実現プロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標

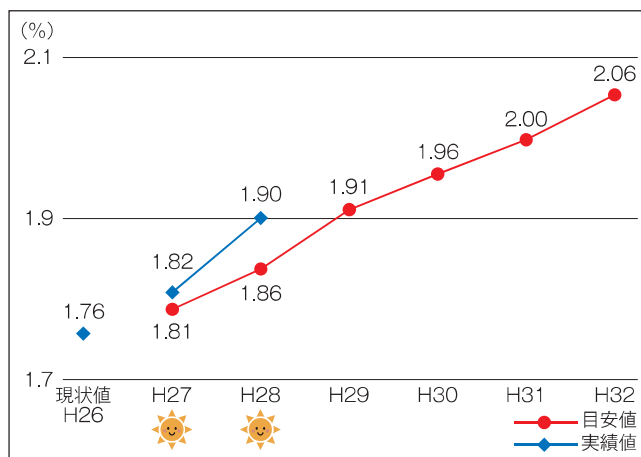
- 障害の有無等に関わらず、誰もが互いを尊重しながら、社会の担い手として活躍するとともに、住み慣れた地域において、共に支え合いながら暮らし続けることができる環境をつくります。

(2) 重点的取組

- ☆ 障害者が安心して暮らせる環境づくりの推進
- ☆ ノーマライゼーションの推進

2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

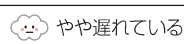
① 障害者の雇用率



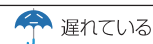
(注)達成見込の判断



概ね順調



やや遅れている



遅れている

○成果指標の分析

- ① 企業等と連携し、障害者雇用率向上に取り組んでおり、目標達成に向けて概ね順調である。(全国35位(平成28年))

3 県民満足度調査の結果

	H28	H29	H30	H31	H32
満足・やや満足の割合	28.3%	30.4%			
やや不満・不満の割合	13.7%	14.8%			

4 主な取組成果

◎ 障害者が安心して暮らせる環境づくりの推進

▷ 障害者差別の解消の推進

○ 障害や障害者に関する理解の促進

- ・ 栃木県障害者差別解消推進条例パンフレットの作成及び配布

- ・ 栃木県障害者差別解消推進フォーラムの開催による普及啓発・理解促進
- ・ 専任相談員の設置による差別解消の効果的な推進

○合理的配慮の浸透・定着

- ・ 栃木県障害者差別解消推進委員会の開催
- ・ 県民が適切に対応するために必要な指針（障害者差別対応指針）の策定・公表

▷地域において健やかに安心して暮らすことができる基盤づくりの推進

○グループホームや日中活動・居宅サービスの確保・充実

- ・ 県障害福祉計画（第四期計画）に基づく計画的なグループホーム等の整備推進

○地域において障害者の生活を支える相談支援体制の確保

- ・ 障害者の地域生活への移行・定着のための相談支援拠点の整備推進
- ・ 障害者の生活を支える地域における相談支援ネットワークの構築を推進
- ・ 相談支援専門員の資質向上のための研修の実施
- ・ 医療的ケア児支援に関する課題の検討

▷就労支援の充実

☆障害者の適性や能力に応じた就労機会等の確保

- ・ 障害者就業・生活支援事業、一般就労移行スキルアップ事業の実施による一般就労の促進
- ・ とちぎナイスハート♥プラン（障害者工賃向上計画(第三期)）に基づく福祉的就労の充実
- ・ 障害者合同就職面接会の開催や、就業体験の機会を提供する障害者就業体験事業の実施

○全国障害者技能競技大会等への参加による障害者雇用の理解促進

- ・ 第15回とちぎアビリンピックの開催
- ・ 第36回全国アビリンピックへの選手派遣

◎ **ノーマライゼーションの推進**

▷地域福祉の総合的推進

○児童養護施設等を退所した児童への自立支援

- ・ とちぎユースアフターケア事業協同組合の安定的な運営と事業の拡充
- ・ 自立支援資金貸付事業の開始及び大学等進学応援事業の拡充

○多様な主体による地域福祉活動の促進

- ・ 地域住民、行政、民間福祉サービス事業者等を対象にした小地域福祉活動推進セミナーの開催

▷ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

○公共施設等のバリアフリー化の促進

- ・ 路線バスのノンステップバス導入に係る国や市町と連携したバス事業者等への支援
- ・ 鉄道駅や公共施設等の周辺における道路のバリアフリー化の推進

○障害者等のコミュニケーション手段の確保

- ・ 手話通訳者、要約筆記者、点訳奉仕員、音訳奉仕員、盲ろう者向け通訳・介助員の養成

5 課題

<医療的ケア児が在宅で安心して暮らせる環境づくり>

近年、医療技術の進歩等を背景として、NICU（新生児集中治療室）等に長期入院後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養等の医療的ケアが必要となる障害児（医療的ケア児）が増加しています。

しかしながら、長期入院後の退院支援や介護を行う家族への支援が不十分であり、また、医療的ケア児の受け入れ可能な福祉サービス事業所が少ないことなどから、医療的ケア児の在宅生活を支える体制を整備していく必要があります。

<公共交通のユニバーサルデザイン化>（再掲）

東京オリンピック・パラリンピックや本県で開催する国民体育大会・全国障害者スポーツ大会を契機として、障害の有無、年齢等に関わらず、地域住民はもとより観光客が移動しやすい公共交通環境の整備が必要であり、鉄道駅に加え、二次交通のユニバーサルデザイン化を進めていく必要があります。